

■ 概況

7/6~7/12のNYMEX・WTIは、44.23~45.52ドルの範囲で推移した。

7月13日は、国際エネルギー機関(IEA)が月報で、2017年・18年の石油需要見通しを上方修正したこと、中国の17年上期の原油輸入が前年同期比13.8%増加したことを好感し、4日続伸した。8月限の終値は前日比0.59ドル高の46.08ドルだった。

週末14日は、シェルのナイジェリア子会社が不可抗力条項を発動し原油輸出を停止したこと、ユーロ高・ドル安の進行で原油先物に割安感が出たことから買い進まれ、5日続伸、7月3日(47.07ドル)以来の高値を付けた。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が765基(前週比2基増)と2週連続で増加したものの、増加は大きく鈍化した。8月限の終値は前日比0.46ドル高の46.54ドルだった。

週明け17日は、前週5日続伸した反動から、利益確定売りやポジション調整の売りが優勢となり、24日のOPEC・非OPEC合同監視委員会を前に協調減産の先行き不透明感もあって、反落した。8月限の終値は前週末比0.52ドル安の46.02ドルだった。

18日は、世論調査のトランプ大統領支持率の低さから、ドル安・ユーロ高が進行、原油先物が買い進まれ、反発した。米国エネルギー情報局(EIA)の国内シェールオイルの8ヵ月連続増加の発表が上値を抑えた。8月限の終値は前日比0.38ドル高の46.40ドルだった。

19日は、EIAの米国在庫週報で原油・ガソリンともに市場予想を上回る減少を示したことから続伸し、約1ヵ月半振りの高値となった。8月限の終値は前日比0.72ドル高の47.12ドル

だった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週45.60~47.00ドルの範囲で推移した。7月13日は46.20ドル、14日は47.10ドル、18日は47.00ドル、19日は47.30ドルで推移した。

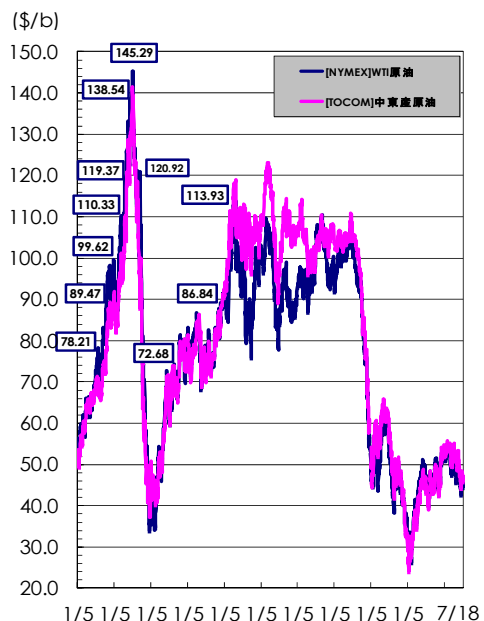
為替は、前週113.04~114.22円でやや円安に推移した。7月13日は113.26円、14日は113.53円、18日は112.43円、19日は111.98円で推移した。

財務省が20日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、6月下旬の原油輸入平均CIF価格は、35,907円/klとなり、前旬を879円下回った。ドル建てでは51.84ドルで前旬比0.93ドル安。為替レートは1ドル/110.13円。また同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、6月の原油輸入平均CIF価格は、36,412円/klとなり、前月を1,348円下回った。ドル建てでは52.21ドルで前月比1.62ドル安。為替レートは1ドル/110.88円。

主要元売会社の7月第4週に適用する卸価格は、全油種据え置きだった。原油価格は値下がり、為替レートは円安だったが、原油調達コストは小幅に値下がりがした。

そのような中で、7月18日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値上がりの130.9円、軽油は0.3円値上がりの110.0円、灯油は横ばいの76.2円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は13週振りの値上がり、灯油も2週連続の横ばいだった。この週(7月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、0.5円から1.0円の値上げだった。

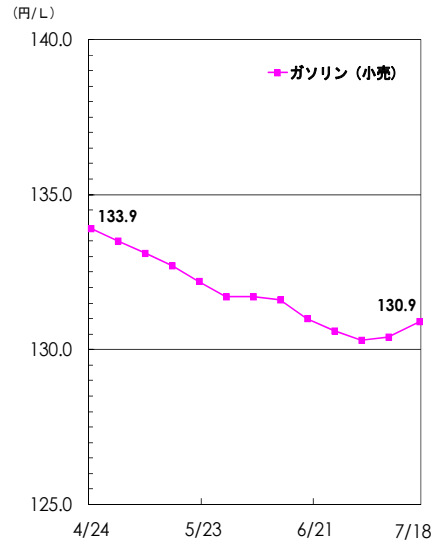
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/9 ~ 7/15	3,461 ▲59	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.4 ▲1.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/15	13,533 ▼-166	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/18	47.25 ▲1.47	▲ 3.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/17	46.02 ▲1.62	▲ 0.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月下旬	51.84 ▼-0.93	▲ 6.56
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	35,907 ▼-879	▲ 5,021
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.13 ▲0.69	▼ -1.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/18	113.43 ▲1.74	▼ -6.45



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/9 ~ 7/15	1,037 ▲ 67	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	981 ▼ -7	▼ -	
	輸出	"	100 ▲ 69	▲ -	
	在庫	7/15	1,728 ▼ -44	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/11 ~ 7/14	50.0 ▼ -0.1	▲ 10.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/11 ~ 7/14	50.0 ▲ 0.6	▲ 9.1
		(TOCOM/中部)	7/14	50.4 ▲ 1.5	▲ 9.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/18	130.9 ▲ 0.5	▲ 8.2	

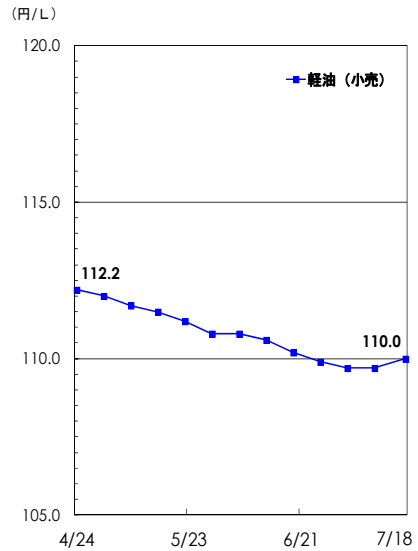
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

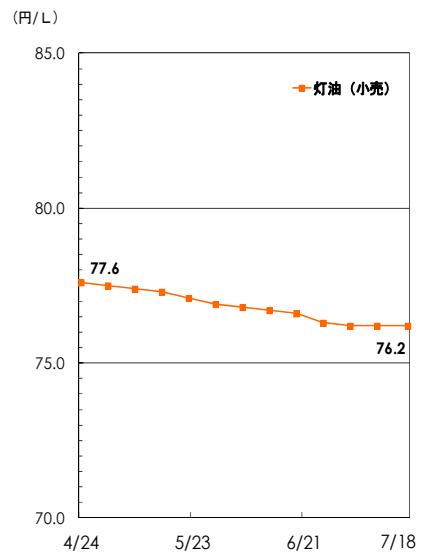
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/9 ~ 7/15	864 ▼ -5	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	726 ▲ 12	▲ -	
	輸出	"	207 ▲ 59	▲ -	
	在庫	7/15	1,444 ▼ -69	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/11 ~ 7/14	48.2 ▼ -0.1	▲ 8.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/11 ~ 7/14	48.0 ➡ 0.0	▲ 9.5
		(TOCOM/中部)	7/14	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/18	110.0 ▲ 0.3	▲ 7.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/9 ~ 7/15	138 ▼ -4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	72 ▼ -17	▼ -	
	輸出	"	3 ▲ 3	▲ -	
	在庫	7/15	1,669 ▲ 63	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/11 ~ 7/14	47.4 ▼ -0.1	▲ 9.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/11 ~ 7/14	48.2 ▲ 0.9	▲ 10.3
		(TOCOM/中部)	7/14	48.0 ▲ 0.7	▲ 9.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/18	76.2 ➡ 0.0	▲ 12.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月19日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油が前週比470万バレル減と市場予想(同320万バレル減)を大きく上回る減少を示し、ガソリンも同440万バレル減と市場予想(同70万バレル減)を上回ったことから、反発した。しかし、為替市場で、ドル高が進んだこと原油の割高感を生み、上値を抑える形になった。8月限の終値は、6月6日以来約1ヵ月半振りの高値となり、前日比0.72ドル高の47.12ドル、9月限の終値は前日比0.73ドル高の47.32ドルだった。

EIAによると、7月17日時点のガソリンの小売価格は前週比1.9セント値下がり1ガロン2.278ドル(68.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.0セント値上がりの2.491ドル(75.3円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値下がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月9日～7月15日に休止したトッパー能力は32.4万バレル/日で、前週に対して6.6万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は346.1万klと、前週に比べ5.9万kl増加。前年に対しては3.4万klの減少。トッパー稼働率は88.4%と前週に対して1.5ポイントの増加、前年に対しては6.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリンのみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.9%増、ジェット/1.7%減、灯油/3.0%減、軽油/0.6%減、A重油/5.9%減、C重油/1.3%減。今週のC重油の輸入は2.7万kl(前週比0.8万kl増)。軽油の輸出は20.7万kl(前週比5.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比でも、ガソリン、灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は98.1万kl(対前週0.8%減)と2週振りに前週比で減少、4週連続で前年比で減少となり、7週連続で100万klを下回った。

ジェット10.8万kl(対前週106.2%増)、灯油7.2万kl(対前週18.5%減)、軽油72.6万kl(対前週1.7%増)、

A重油20.7万kl(対前週6.7%増)、C重油23.1万kl(対前週9.8%減)。

(単位:千KL)

	今週 (7/9 ~ 7/15)	前週 (7/2 ~ 7/8)	前週比	
ガソリン	981	988	▼ -7	(-1%)
ジェット燃料	108	52	▲ 56	(108%)
灯油	72	89	▼ -17	(-19%)
軽油	726	714	▲ 12	(2%)
A重油	207	194	▲ 13	(7%)
C重油	231	256	▼ -25	(-10%)
合計	2,325	2,293	▲ 32	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月15日時点の在庫は、ガソリン、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは172.8万kl、前週差4.4万kl減。前年に対して1.4万kl多い。

灯油は166.9万kl、前週差6.3万kl増。前年に対しては33.7万kl少ない。

軽油は144.4万kl、前週差6.9万kl減。前年に対しては6.1万kl少ない。

A重油は80.2万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては4.4万kl多い。

C重油は213.1万kl、前週差2.4万kl増。前年に対しては25.8万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (7/15)	前週 (7/8)	前週比	
ガソリン	1,728	1,772	▼ -44	(-2%)
ジェット燃料	1,170	1,109	▲ 61	(6%)
灯油	1,669	1,606	▲ 63	(4%)
軽油	1,444	1,513	▼ -69	(-5%)
A重油	802	796	▲ 6	(1%)
C重油	2,131	2,107	▲ 24	(1%)
合計	8,944	8,903	▲ 41	(0.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月11日から7月17日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートがやや円安であったが、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103円台でほぼ横ばい、軽油48円台でほぼ横ばい、灯油47円台で横ばいで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン105円台で連日動き、軽油49円台でやや軟化、灯油47～48円台でやや堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン103～104円台で堅調に、軽油48円台で横ばい、灯油47～48円台で堅調に推移した。元売の卸

価格は、据え置きだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、陸上の3品がわずかに値下がりし、先物の軽油が横ばいであった以外は、陸上と先物は全て値上がりした。週間のガソリン出荷量(輸入分を除く)は、4週連続で前年割れ、2週振りで前週比割れとなり、7週連続で100万kl割れとなった。

7月第4週(7月20日～7月26日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月11日～7月14日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.1円の値下がり、軽油は0.1円の値下がり、灯油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円の値上がり、軽油は0.7円の値上がり、灯油は0.3円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.6円の値上がり、軽油が横ばい、灯油は0.9円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替はやや円高であったが、原油コストは値上がりとなった。

7月第4週の大手元売の卸価格は、据え置きだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (7/11～7/14)	前週 (7/4～7/10)	前週比
	レギュラー	50.0	50.1
灯油	47.4	47.5	▼ -0.1
軽油	48.2	48.3	▼ -0.1

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (7/11～7/14)	前週 (7/4～7/10)	前週比
	レギュラー	50.0	49.4
灯油	48.2	47.3	▲ 0.9
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/11～7/14実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.1	▲ 0.6	▲ 0.2
灯油	▼ -0.1	▲ 0.9	▲ 0.4
軽油	▼ -0.1	▶ 0.0	▼ -0.1
A重油	▶ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値上がりの130.9円、軽油は0.3円値上がりの110.0円、灯油は横ばいの76.2円だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油は13週振りの値上がり、灯油は2週連続の横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは36都道府県、横ばいは4県、値下がり7県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の126.9円(前週比1.0円高)、次が滋賀県と岡山県の127.0円(同1.6円高と0.5円高)だった。最高値は沖縄県の140.0円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比3.0円高の神奈川県(129.7円)、最も値下がりした県は同0.3円安の長崎県

(138.5円)、横ばいが沖縄県・高知県・広島県・千葉県だった。

原油コストは値上がりし、元売りの卸価格も0.5円から1.0円の値上げとなり、2週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートはやや円高となったが、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、据え置きだった。次週(7月24日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/18)	前週 (7/10)	前週比	直近高値	
レギュラー	130.9	130.4	▲ 0.5	08/8/4	185.1
灯油	76.2	76.2	▶ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	110.0	109.7	▲ 0.3	08/8/4	167.4

小売価格

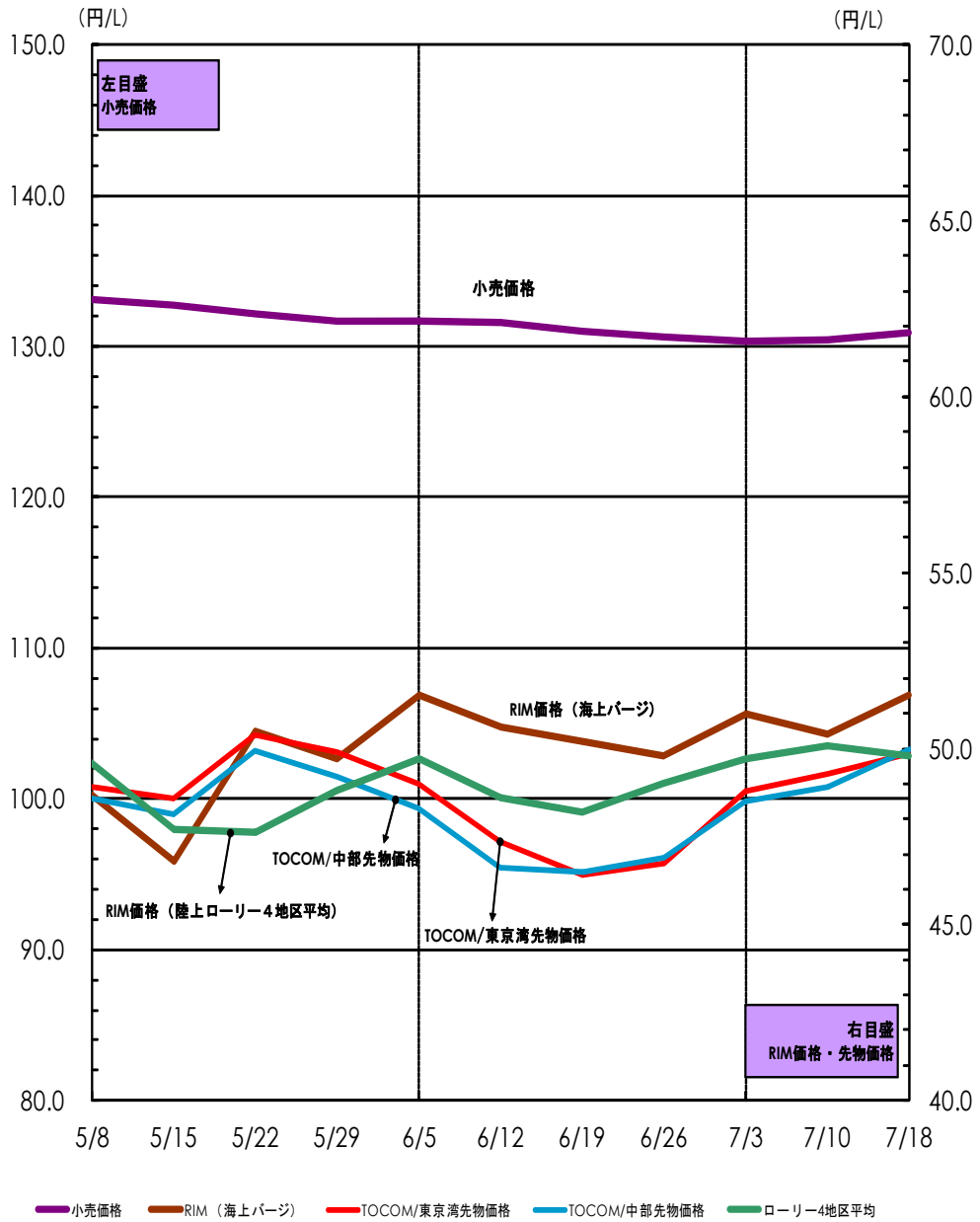
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/5/8 ~ 2017/7/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第16号)の公表は、7/28(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。